



## 三条 税務署長賞

『とどけ!!!』

学校法人 加茂暁星学園

加茂暁星高等学校

二年

高橋 たかはし

怜聖 りょうせい

国民の三大義務、一つ目は「教育の義務」二つ目は「勤労の義務」三つ目が、そう「納税の義務」だ。つまり私たち人間は、税の密接な関係にある。

私たち、高校生にとって一番関係の深い税は、おそらく「消費税」だろう。日本の消費税は、平成元年に当時の竹下内閣が3%で導入したのが始まりである。現在は過去三回の増税を行ったのに令和元年に税率10%になった。仮に100円の商品を買ったとしたら110円を払わなければならない。「一体この税金は何に使われているのだろう。」と、以前の私は思っていた。この税が、私たちの生活を豊かにする大きな力ギになっていることを知るまでは。

私たちの生活は数え切れないほど、税によって支えられているが、その中の一つに「医療費」がある。私は小さい頃、よく風邪をひき、何度も病院に通っていた。しかし、医療助成金のおかげで、私の町では高校生まで、530円で診察から薬までもらうことができる。本来、この医療助成金がなかった場合、一回の診

察と薬代で数万円もかかると言われている。そんな世界を想像したくはない。今では健康に日々の生活を送れており、税にはとても感謝している。また、以前までは新型コロナウイルスワクチンの費用も公費での全額負担となり税金によって行われていた。つまり、私たちの健康を税金が支えてくれている。

私もあと一年後には成人になる。そして、数年後には働くようになり、社会で活躍し経済を回す立場として、色々な種類の税金を納めることになるだろう。元日に襲った能登半島地震。私の住む新潟県でも被害が出た。特に、新潟市西区では液状化により道路の陥没や家が傾くなど大きな被害が出た。復旧作業や市町村、各家庭への補助金も税によるものだ。災害時に駆けつけて、作業の手伝いや炊き出しなどをしてくれる自衛隊の活動費も、もちろん税によるものだ。もし日本に税が存在せず、補助金や自衛隊がなかったら、被災された方々は、どのような思いをしたのだろうか。

税金を納めることによって、誰かの支えとなる。そして、日々の生活で私たちも恩恵をたくさん受ける。もしもの時は自分のところに違う形で助けとなり返ってくるだろう。それはイコール「未来への貯金」とも考えることができる。

私たちの暮らしをより良いものにするために。そして、困っている誰かの支えになっていっていると信じて。今を生きる私たち一人ひとりが明るい未来への祈りも込めながら、怠ることなく税金を納めていきたい。

